

秋川牧園肉鶏3か年計画

ブロイラー									
	項目	項目詳細	基準案	現況	自社現況詳細	1step(1年目)	2step(2年目)	3step(3年目)	達成
① 飢えと乾きからの自由	飼料	安全性	カビや残留農薬等に汚染されていない、安全な飼料	○					
		栄養・嗜好性	発育段階にあった栄養バランスの取れた飼料で、嗜好性も良好である	○					
	水	水道水・井戸水共通	人の飲み水としての基準を満たす	○					
		飲水量制限の有無	水は新鮮で衛生的な状態であること	○					
② 不快からの自由	飼育環境	飼育面積	坪40羽以下の飼育密度である	○					
		飼育方法	自然な光と風の入る開放鶏舎	○					
		暑熱・寒冷対策	正常な体温を保てる温度	△					
		野生動物侵入防止策	動物侵入防止対策を行っている	△					
	新鮮な空気の確保	常時新鮮な空気と交換できる	△						
床	不快感を感じない床面	床には十分な厚さの敷料があり、適度に乾燥している。	○						
③ 痛み、傷、病気からの自由	病気・疾患	早期発見体制	最低1日1回は鶏舎内の見回りを行っており、飼育記録簿もつけている。	○					
		病原体侵入防止策	病原体侵入防止策を行っている	○					
		予防策	推奨ワクチネーションプログラムの実施	○					
		疾患鶏の分別管理	疾患鶏の別飼育又は淘汰処分	○					
④ 正常行動発想の自由	遊具	砂浴び場	乾燥した敷料があり、砂浴びをすることができる	○					
		照度	舎内の点灯	入雛後約1週間後以降は、暗期が1日4時間以上確保されている	○				
⑤ 恐怖や悲しみからの自由	屠鳥・安楽死	疾病・傷害鶏の安楽死	炭酸ガス麻酔の使用	×					
● その他	AW教育	飼育員へのAW教育	農場スタッフのAW理解	×					
	無投薬飼育、飼育成績	飼育成績からの検証	無投薬飼育を継続的に行い、かつ、育成率などの飼育成績も良好な数字を確保している。	○					

AWFC 肉鶏の基準案と秋川牧園の3か年計画案

	項目	項目詳細	基準案	基準の解説	現況	自社現況詳細	1step	2step	3step
①飢えと乾きからの自由	飼料	安全性	カビや残留農薬等に汚染されていない、安全な飼料	採卵の案を採用。今回はnon-GMOや植物性の項目は入れない。	○	non-GMO、PHFコーン、肉骨粉と油脂不使用である。			
		栄養・嗜好性	発育段階にあった栄養バランスの取れた飼料で、嗜好性も良好である		○				
	水	水道水・井戸水共通	人の飲み水としての基準を満たす	大腸菌陰性など	○	毎年水質検査を実施			
		飲水量制限の有無	水は新鮮で衛生的な状態であること	ニップル方式ではない場合は、特に水飲みの清掃状態が重要	○	ニップル方式なので問題なし			
②不快からの自由	飼育環境	飼育面積	坪40羽以下の飼育密度である	坪35羽以下又は33kg/m ² 以下としたいが、ペースラインなので緩めた。	○	坪35羽以下である。			
		飼育方法	自然な光と風の入る開放鶏舎	ウインドレスを否定	○				
		暑熱・寒冷対策	正常な体温を保てる温度	採卵の案を採用	△	暑さ対策をするが、それでも夏は暑いだろう。			
		野生動物侵入防止策	動物侵入防止対策を行っている	採卵の案を採用	△	ネズミの侵入が0とはいえない。	有効なネズミ対策の試験		
	新鮮な空気の確保	常時新鮮な空気と交換できる	採卵の案を採用	△	入雛時に、アンモニア濃度が高であるケースがある。		入雛時の床の発酵レベルを上げる。		
床	不快感を感じない床面	床には十分な厚さの敷料があり、適度に乾燥している。		○					
③痛み、傷、病気からの自由	病気・疾患	早期発見体制	最低1日1回は鶏舎内の見回りを行っており、飼育記録簿もつけている。		○				
		病原体侵入防止策	病原体侵入防止策を行っている	採卵の案を採用。採卵は飼育環境の分類であるが。	○				
		予防策	推奨ワクチネーションプログラムの実地	採卵の案を採用	○				
		疾患鶏の分別管理	疾患鶏の別飼育又は淘汰処分	ブロイラーでは原則淘汰処理をしているため	○				
④正常行動発想の自由	遊具	砂浴び場	乾燥した敷料があり、砂浴びをすることができる		○				
		照度	舎内の点灯	入雛後約1週間後以降は、暗期が1日4時間以上確保されている	「AWの向上を目指して」では4時間になっている。	○	入雛後1週間後は点灯はしていない。		
⑤恐怖や悲しみからの自由	屠鳥・安楽死	疾病・傷害鶏の安楽死	炭酸ガス麻酔の使用	採卵の案を採用	×	頸椎を脱臼さす方法をとっている			
●その他	AW教育	飼育員へのAW教育	農場スタッフのAW理解	採卵の案を採用	×	現行では不十分	AWの観点からの飼育の改善の取り組み		
	無投薬飼育、飼育成績	飼育成績からの検証	無投薬飼育を継続的にいき、かつ、育成率などの飼育成績も良好な数字を確保している。	どんなに他の項目を満たしていても、育成率がガタガタの数字では論外となる。	○				

